

2024年9月28-29日  
スーパー耐久 Rd.5 鈴鹿サーキット  
レースレポート  
QF 13<sup>th</sup> / RACE 11<sup>th</sup>



## 予選 Qualifying

今大会はDドライバーとして参戦させていただきました。

S耐の予選はA+Bドライバーの合算タイムでグリッドが決まるためC,Dドライバーは決勝レースに向けて車両チェックを行います。今回はCドライバーのタイヤのままアタックを開始しました。

全大会のもてぎでは、自分で付けてしまったタイヤカスで上手くタイムを伸ばすことが出来ず、今回は「タイヤカスを拾わない、拾っても取ってやる！」という気持ちで挑みました。コースインと共にすでにタイヤカスを感じましたが、絶対取ってやると思いながら走行し、3周ほどでなんとなく取れたように感じました。しかし上手くタイムが伸びず、もどかしく感じます。また、56台のチームがA~Cドライバーそれぞれ走行した後の路面は、決勝レース時にも似ており、タイヤカスが溜まりやすいところ等を確認することができました。

前回レースで悔しかったタイヤカスに悩まされないよう、上手な抜かれ方、安定したタイムを目標に決勝レースに向けて準備します。



## 決勝 Race

A+Bドライバーの合算タイムの結果、予選は13位からスタート。

私は今回も2番目に連続2スティントの合計約1時間30分程を担当させて頂きました。スタートドライバーの方が10位までポジションアップし、バトンを受け取ります。

前回までの反省から、他クラスから抜かれてもタイムを落とさない走らせ方、タイヤカスを拾わないことを意識し走行します。

レースの中で周回数を重ね、次第に鈴鹿にも慣れ、自己ベストタイムを更新することもできました。抜かれ方もだいぶ慣れ、なんとかタイムも安定しながら走行でき、自信にも繋がりました。しかし、まだまだ車両の感覚に自信を持ち切ることが出来ていない点があります。それはVITAレースにとっても同じことが言えるので、どんな車両でも自信を持って走ることが出来るよう、今の課題を早く乗り越えられるよう精進します。

その後、7位までポジションアップし、第3ドライバーにバトンを繋ぎましたが、アクシデントがあり、緊急ピットイン。メカニックの皆様が一生懸命修復してくれ、コース復帰をすることが出来ました。そのまま第4ドライバーに繋ぎ、なんとか決勝も11位でチェッカーを受けることが出来ました。



スーパー耐久に参戦する中で、久しぶりに富士スピードウェイ以外のサーキットを走ることが出来、慣れないサーキットでのタイムの出し方や、コースに合わせた車の動かし方が異なり、毎戦非常に勉強になります。

どんな車に乗ってもすぐに特徴を捉え乗りこなせるような強いドライバーになるために、きちんと正確にメカニックさん方に伝える為に、どんなレースも大切にしながら参戦を続けていきます。

また、今回チームメイトのアクシデントもありましたが、やはり無事にチェッカーを迎えることがレースは非常に大切なことを改めて感じました。

自分の為、チームの為、応援して下さる皆さんのために、見ていて面白いバトルが出来るように、日々努力を重ねていきます。

今回もたくさんの応援ありがとうございました！

岩岡万梨恵



Supported by

